

君津地域水稻情報 「あぜみち第1報」

平成 27 年 5 月 22 日 君津農業事務所 改良普及課
 電話 0438-23-0299 F A X 0438-23-6698
 ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

★ 平年以上に早生・中生・晩生の全てで生育は早い
 ★ 茎数過多に要注意！早めの中干しを！

1 君津地域の生育概況

今年は、移植時期から続く高温多照傾向のため、平年よりも葉令の進みが早く、茎数がかかなり多くなっています。また、草丈も高く、全体的に旺盛な生育です。

移植時期が遅かった地域を除いて、コシヒカリでは茎数が既に確保されているほ場もあります。また、ふさおとめ・ふさこがねについても、例年よりも中干し時期が早まることが予想されます。

昨年は生育が早く進んだ影響で、茎数過多となり、中干しの時期が遅れたほ場が多く見られました。その結果、倒伏や品質低下（乳白米の発生等）に繋がりました。今年は、目標茎数が確保されたら、早めに中干しを行って過剰な分けつを抑えましょう。

2 生育調査ほの調査結果（5月20日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数(/株)	茎数 (/㎡)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	27	4/16	8.7	29.0	23.8	357
	平年	4/16	7.0	24.6	11.0	164
	平年比	±0	+1.7	+4.4	+12.8	+193
ふさこがね (君津市)	27	4/21	7.4	29.7	18.0	340
	平年	4/19	6.3	23.6	11.3	217
	平年比	+2	+1.1	+6.1	+6.7	+123
コシヒカリ (君津市)	27	4/22	7.9	33.2	20.7	406
	平年	4/20	6.2	28.8	14.3	269
	平年比	+2	+1.7	+4.4	+6.4	+137
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	27	4/19	7.0	35.1	21.0	342
	平年	4/21	5.8	28.6	10.8	194
	平年比	-2	+1.2	+6.5	+10.2	+148
コシヒカリ (木更津市)	27	5/8	4.4	25.5	4.7	81
	昨年	4/27	6.0	28.0	7.7	162
コシヒカリ (一発肥料) (君津市)	27	5/8	4.6	20.4	7.0	114
	昨年	5/5	4.4	29.1	5.7	91

※平年値は過去5か年（2010～2014年）平均値。ただし、木更津市のほ場は26年から調査を始め、君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は25年から調査を始めたため、平年値はなし。

3 これからの管理のポイント

① 茎数に応じて中干しに入りましょう

中干しには分げつを抑制し、根の生育を良くする効果があります。今年は昨年よりも生育が進んでいるため、中干しの時期については注意が必要です。表 1 を参考に、目標の茎数が確保されたら、速やかに中干しを始めましょう。

表 1 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数(本/m ²)		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	4月20日	480 (27本)	480 (27本)	440 (24本)
ふさこがね	4月20日	—	360 (20本)	—
コシヒカリ	4月20日	320 (18本)	310 (17本)	300 (16本)
	5月1日			

※ () 内は 60 株/坪植えの時の 1 株当たり茎数の目安

また、出穂前後に湛水管理を行っても収穫作業に支障が出ないように、幼穂形成期に入るまでに中干しを行い、田面を固めておく必要があります。

中干しは田面に小さな亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まない程度まで行います。中干しが強すぎると田面に大きな亀裂が入ってしまい、根が切れてしまったり、その後の水持ちが悪くなったりします。十分な用水を確保できない地区では、過度な中干しは控えましょう。

中干しを終えたら、かんがい水が田面全体に行き渡る程度の浅水とし、なくなれば水を入れる間断かんがいを行います。

② 藻の防除は適切に

今年は高温の影響で、多くのほ場で藻が発生しています。藻が大量に発生すると、光が水中に入らないため水温が上がらず、初期生育の遅れにつながります。藻の発生が多い場合は、表 2 を参考に、適切に薬剤を使用しましょう。

表 2 ウキクサ類及び藻類におけるモゲトン粒剤の登録内容

適用雑草	使用時期	使用土壌	希釈倍数・使用量 /10a	本剤の使用回数	使用方法	ACNを含む農薬の総使用回数
ウキクサ類、藻類 (アミト [®] 、アミト [®])	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 (但し、収穫 45 日前まで)	砂壤土～埴土	2～3kg	3 回以内	湛水散布	3 回以内

③ 今後の高温に注意

気象庁の発表によると5月23日から6月1日までの1週間は、気温が平年よりかなり高くなると見込まれています。この場合、稲の生育はさらに進むことが予想されます。生育診断を行い、中干しが遅れないようにしましょう。

※ 次号は「6月5日頃」発行予定